



## 2020年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年3月2日

上場会社名 株式会社エイチ・アイ・エス 上場取引所 東  
 コード番号 9603 URL https://www.his.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 社長執行役員 (氏名) 澤田 秀雄  
 グループ最高経営責任者  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 最高財務責任者 (氏名) 中谷 茂 TEL 03-6388-0707  
 四半期報告書提出予定日 2020年3月9日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け電話会議）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年10月期第1四半期の連結業績（2019年11月1日～2020年1月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第1四半期	199,618	6.6	3,791	△36.6	4,288	△17.5	2,177	△7.6
2019年10月期第1四半期	187,276	13.8	5,981	46.7	5,199	31.4	2,356	80.9

(注) 包括利益 2020年10月期第1四半期 3,155百万円 (△8.7%) 2019年10月期第1四半期 3,456百万円 (29.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第1四半期	37.93	35.15
2019年10月期第1四半期	41.12	35.52

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年10月期第1四半期	577,884	126,306	16.7	1,685.20
2019年10月期	577,399	123,909	16.8	1,686.22

(参考) 自己資本 2020年10月期第1四半期 96,771百万円 2019年10月期 96,773百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期	-	0.00	-	33.00	33.00
2020年10月期	-	-	-	-	-
2020年10月期（予想）	-	0.00	-	33.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年10月期の連結業績予想（2019年11月1日～2020年10月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	375,000	△0.8	2,400	△73.3	3,500	△60.6	800	△83.9	13.93
通期	775,000	△4.1	1,700	△90.3	2,800	△83.6	△1,100	△109.0	△19.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社 （社名）DORAK HIS OTELCILIK VE TIC. A. S.、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、【添付資料】8ページ「2. (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、【添付資料】8ページ「2. (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年10月期1Q	68,522,936株	2019年10月期	68,522,936株
② 期末自己株式数	2020年10月期1Q	11,098,698株	2019年10月期	11,132,098株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年10月期1Q	57,407,463株	2019年10月期1Q	57,303,996株

（注）期末自己株式数には、エイチ・アイ・エス従業員持株会専用信託が保有する当社株式を含めております。（2020年10月期1Q 155,200株、2019年10月期188,600株） また、同信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。（2020年10月期1Q 171,975株、2019年10月期1Q 269,500株）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項は【添付資料】2ページ「1. (1)経営成績に関する説明」及び3ページ「1. (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間における経営環境は、国内では一部弱さが増しているものの、雇用・所得環境の改善や各種政策効果もあり、景気は緩やかに回復いたしました。一方で、国際情勢においては、引き続き通商問題を巡る緊張や経済の先行き、一部地域での情勢に対する不安がみられました。

このような環境の中、当社グループは、拡大している事業領域へ対応すべく体制の再編を行うとともに、「自然の摂理にのっとり、人類の創造的発展と世界平和に寄与する」という企業理念のもと、旅行のみならず様々な事業を通じて、常に変化・発展し続ける企業として、世界の平和に貢献できる新しいビジネスモデルの構築を目指してまいりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。また、各セグメントの金額は、セグメント間取引を相殺消去する前の金額であります。

#### (旅行事業)

当第1四半期連結会計期間における旅行市場は、日本人出国者数においては、東アジアの情勢不安による減少もあり、前年同期比99.6%の473万人となりました。訪日外客数においては、ボリュームの大きい韓国市場の減速により、前年同期比98.2%の762万人と減少いたしました。（出典：日本政府観光局（JNTO））

日本における旅行事業につきましては、最大9連休となった年末年始に加えて、欧州・グアムの需要継続や、国内においては冬の沖縄キャンペーンが奏功したものの、香港・韓国の情勢不安による減少が見られ、全体では前期並みとなりました。訪日旅行では、東アジアからの受客が厳しい競争環境に置かれており、引き続き改善を図ってまいりましたが、低調に推移いたしました。法人事業では、日系企業に向けた海外進出支援事業を推進するとともに、地方自治体とのプロモーション事業も実施いたしました。

海外における旅行事業では、前期第3四半期連結会計期間より新規連結したRed Label Vacations Inc.による増収寄与があったものの、収益面においては、人件費等の費用増加により弱含みとなりました。

なお、当社グループの営業拠点数は、引き続き新規出店と統廃合を実施した結果、国内259拠点、海外69カ国165都市274拠点となりました。（2020年1月末日時点）

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,753億20百万円（前年同期比105.2%）、営業利益は23億70百万円（同58.2%）となりました。

#### (ハウステンボスグループ)

ハウステンボスでは、10年目を迎えた「光の王国」や、4年半ぶりに復活した「ONEPIECEサウザンド・サニー号クルーズ2nd」などの主力コンテンツの展開に加え、これまで別料金だったアトラクションをパスポートで利用可能にする等の改革をした「パスポート革命」による集客強化を図り、入場者数の増加を見込んでおりましたが、クリスマス時期の日並びや訪日観光客の落ち込みなどを受け、入場者数は前年同期比97.2%の688千人と減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は64億47百万円（前年同期比86.9%）、営業利益は6億44百万円（同36.4%）となりました。

#### (ホテル事業)

ホテル事業では、初の試みとなる天然温泉施設を付帯した「変なホテル 関西空港」と、北陸地区に初進出となる「変なホテル金沢 香林坊」を開業するなど、引き続き世界の生産性を目指す「変なホテル」を中心に開発を進めてまいりました。既存ホテルの中では、グアムリーフホテルがマーケット動向に合わせた営業展開が奏功するなど、好調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は38億11百万円（前年同期比123.4%）、営業利益は3億11百万円（同121.0%）、EBITDAベースでは7億31百万円（同140.6%）となりました。

#### (九州産交グループ)

九州産交グループでは、バス事業が堅調に推移したことに加え、大型商業施設「SAKURA MACHI Kumamoto -サクラマチ クマモト-」が2019年9月に開業したことにより、当第1四半期連結累計期間における売上高は69億34百万円（前年同期比117.9%）、営業利益は3億16百万円（同172.6%）となりました。

(エネルギー事業)

エネルギー事業では、電力小売事業において、販路拡大による契約数の増加、新たな取り組みとしてガスの小売りを本格化し電気とのセット販売を開始したことに加え、安定した調達環境も寄与し、当第1四半期連結累計期間における売上高は62億91百万円(前年同期比156.7%)、営業利益は2億68百万円(前年同期比225.9%)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は1,996億18百万円(前年同期比106.6%)、営業利益は37億91百万円(同63.4%)となりました。また、経常利益は42億88百万円(同82.5%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億77百万円(同92.4%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億84百万円増加し、5,778億84百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加(前期末比261億14百万円増)、旅行前払金の増加(同50億5百万円増)、現金及び預金の減少(同236億円減)、未収入金の減少(同85億42百万円減)によるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ19億12百万円減少し、4,515億77百万円となりました。これは主に、旅行前受金の増加(前期末比153億91百万円増)、リース債務の増加(同137億79百万円増)、未払金の減少(同149億47百万円減)、借入金の減少(同127億8百万円減)、賞与引当金の減少(同23億16百万円減)によるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ23億97百万円増加し、1,263億6百万円となりました。これは主に、非支配株主持分の増加(前期末比23億99百万円増)によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期及び通期の連結業績予想につきましては、旅行事業・ハウステンボスグループ・ホテル事業を中心に新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響が見込まれることに加え、ハウステンボスにおいてイベント施策や入場料金改定による入場者数増加を見込んでいたものの改善に結びついていないことを考慮して、2019年12月12日に公表した連結業績予想を修正いたしました。詳細は、本日(2020年3月2日)開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、以下の事象が発生した場合、第2四半期及び通期の連結業績予想に影響を及ぼす可能性があります。

①新型コロナウイルスの影響

現時点では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響が2020年7月まで続くと仮定して、連結業績予想を修正しておりますが、実際の終息時期によっては第2四半期及び通期の連結業績予想に影響を及ぼす可能性があります。また、ハウステンボスグループにおいては、2020年2月29日から2020年3月15日までテーマパークを臨時休園することといたしましたが、当該影響額については現在算定中のため、連結業績予想には反映しておりません。

②為替変動

当社グループは、外貨建の取引を行っており、これに伴って外貨建の収益・費用及び資産・負債が発生しております。為替レートの変動による影響を軽減すべく為替予約等によるリスクヘッジを行っておりますが、為替レートが大きく変動した場合は第2四半期及び通期の連結業績予想に影響を及ぼす可能性があります。

③燃油サーチャージの増減

旅行事業の売上高に含まれる燃油サーチャージは、航空燃油の変動に伴い増減または不要となる場合がございます。これにより、連結業績予想の売上高に影響を及ぼす可能性があります。連結業績予想の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益への影響はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	219,175	195,574
受取手形及び売掛金	45,653	48,686
営業未収入金	4,287	2,417
旅行前払金	52,102	57,108
前払費用	2,888	3,054
短期貸付金	1,389	313
関係会社短期貸付金	307	375
未収入金	16,936	8,394
その他	6,305	7,286
貸倒引当金	△766	△768
<b>流動資産合計</b>	<b>348,280</b>	<b>322,442</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	53,394	58,487
工具、器具及び備品(純額)	7,567	9,208
土地	47,654	48,888
リース資産(純額)	3,330	15,940
建設仮勘定	27,874	33,071
その他(純額)	7,277	7,618
<b>有形固定資産合計</b>	<b>147,098</b>	<b>173,213</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	7,305	7,291
その他	19,271	19,073
<b>無形固定資産合計</b>	<b>26,576</b>	<b>26,365</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	16,270	15,637
関係会社株式	3,241	2,981
関係会社出資金	50	50
長期貸付金	3,313	3,428
関係会社長期貸付金	1,071	2,424
退職給付に係る資産	529	540
繰延税金資産	8,134	8,510
差入保証金	11,862	11,570
その他	11,189	10,964
貸倒引当金	△388	△406
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>55,275</b>	<b>55,702</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>228,951</b>	<b>255,280</b>
繰延資産	168	161
<b>資産合計</b>	<b>577,399</b>	<b>577,884</b>

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	38,082	37,650
短期借入金	6,903	5,063
1年内返済予定の長期借入金	37,548	27,434
未払金	22,319	7,371
未払費用	4,517	4,852
未払法人税等	3,904	2,412
未払消費税等	1,057	624
旅行前受金	92,760	108,152
リース債務	793	2,661
賞与引当金	5,510	3,193
役員賞与引当金	224	107
その他	17,950	18,252
流動負債合計	231,572	217,777
固定負債		
社債	30,000	30,000
転換社債型新株予約権付社債	25,090	25,086
長期借入金	146,403	145,649
繰延税金負債	4,789	5,627
退職給付に係る負債	7,715	7,781
役員退職慰労引当金	371	364
リース債務	2,767	14,679
その他	4,779	4,612
固定負債合計	221,918	233,800
負債合計	453,490	451,577
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,000	11,000
資本剰余金	3,392	3,389
利益剰余金	112,409	112,085
自己株式	△28,309	△28,206
株主資本合計	98,493	98,268
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,019	798
繰延ヘッジ損益	75	72
為替換算調整勘定	△2,626	△2,223
退職給付に係る調整累計額	△187	△143
その他の包括利益累計額合計	△1,719	△1,496
非支配株主持分	27,135	29,535
純資産合計	123,909	126,306
負債純資産合計	577,399	577,884

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
売上高	187,276	199,618
売上原価	152,182	163,593
売上総利益	35,093	36,025
販売費及び一般管理費	29,111	32,233
営業利益	5,981	3,791
営業外収益		
受取利息	411	387
持分法による投資利益	6	28
為替差益	—	260
その他	279	381
営業外収益合計	697	1,058
営業外費用		
支払利息	174	230
出資金運用損	203	172
為替差損	609	—
その他	492	157
営業外費用合計	1,479	560
経常利益	5,199	4,288
特別利益		
投資有価証券売却益	—	512
特別利益合計	—	512
特別損失		
減損損失	—	249
特別損失合計	—	249
税金等調整前四半期純利益	5,199	4,551
法人税等	1,803	1,710
四半期純利益	3,395	2,841
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,039	663
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,356	2,177

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
四半期純利益	3,395	2,841
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△73	△221
繰延ヘッジ損益	△320	△2
為替換算調整勘定	427	500
退職給付に係る調整額	25	45
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△8
その他の包括利益合計	61	314
四半期包括利益	3,456	3,155
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,520	2,400
非支配株主に係る四半期包括利益	936	755

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第1四半期連結会計期間より、DORAK HIS OTELCILIK VE TIC. A. S. は、株式の取得により連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当社グループのIFRS適用連結子会社は、IFRS第16号「リース」(2016年1月13日。以下「IFRS第16号」という。)を、当第1四半期連結会計期間より適用しております。

IFRS第16号の適用により、借手のリースは、原則としてすべてのリースについて資産および負債を認識しております。IFRS第16号の適用にあたっては、その経過的な取扱いに従って、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当該会計基準の適用による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	旅行事業	ハウス テンボス グループ	ホテル 事業	九州産交 グループ	エネルギー 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	166,139	6,981	2,904	5,872	3,981	185,878	1,397	187,276	—	187,276
セグメント間の内部 売上高又は振替高	478	434	182	9	33	1,138	158	1,297	△1,297	—
計	166,617	7,415	3,087	5,882	4,014	187,017	1,556	188,573	△1,297	187,276
セグメント利益	4,071	1,771	257	183	118	6,402	101	6,504	△522	5,981

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険事業および不動産事業等であります。

2. セグメント利益の調整額△522百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その内容は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の本社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位:百万円)

	旅行事業	ハウス テンボス グループ	ホテル事業	九州産交 グループ	エネルギー 事業	その他	合計
セグメント利益	4,071	1,771	257	183	118	101	6,504
減価償却費 及びのれん償却費	924	518	263	222	16	121	2,066
EBITDA(※)	4,996	2,289	520	405	135	223	8,570

(※) EBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれん償却費を加えた数値です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2019年11月1日至2020年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	旅行事業	ハウス テンボス グループ	ホテル 事業	九州産交 グループ	エネルギー 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	174,845	6,079	3,586	6,933	6,258	197,704	1,914	199,618	—	199,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高	474	368	225	0	32	1,101	143	1,244	△1,244	—
計	175,320	6,447	3,811	6,934	6,291	198,805	2,058	200,863	△1,244	199,618
セグメント利益	2,370	644	311	316	268	3,910	402	4,313	△522	3,791

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険事業および不動産事業等であります。

2. セグメント利益の調整額△522百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その内容は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の本社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 報告セグメントごとのEBITDAは次のとおりです。

(単位:百万円)

	旅行事業	ハウス テンボス グループ	ホテル事業	九州産交 グループ	エネルギー 事業	その他	合計
セグメント利益	2,370	644	311	316	268	402	4,313
減価償却費 及びのれん償却費	1,288	521	420	484	21	86	2,822
EBITDA(※)	3,658	1,166	731	801	289	489	7,136

(※) EBITDAは、セグメント利益に減価償却費及びのれん償却費を加えた数値です。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。